



アキワークス「国東時間（くにさきじかん）」の取組み

～ 週休三日制の導入による、創造性・生産性の向上と豊かさの追求～



会社概要

会社名：株式会社アキ工作社

所在地：大分県国東市安岐町富清 3209 番地 2

創業年月日：平成 10 年 7 月 3 日（現在 17 期）

資本金：3200 万円

業種：製造業

事業内容：

インテリア・ディスプレイ、雑貨商品の製造販売

従業員：13 人

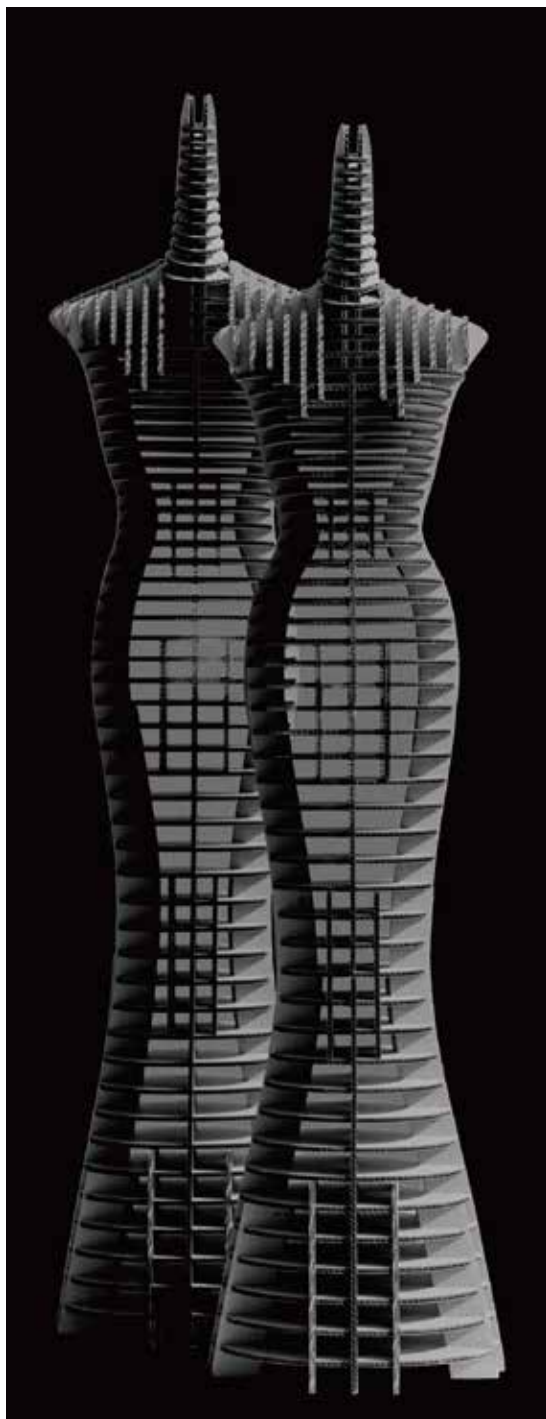
平成 22 年より廃校になった小学校舎を借り受け、モノづくり事業の拠点としている。

ここは少子高齢化が進む、日本の典型的な中山間集落である。

製品概要 1

【d-torso（ディー・トルソー）とは】

d-torso は、アキ工作社が開発した**立体造形システム**です。立体イメージをCTスキャンのように輪切りにしていき、その断面をもとに一つひとつの部品を設計し、それらをふたたび再構築する設計手法です。1998年にはじめて発表した「**段ボール製組立て式マネキン**」以来、同造形システムを発展させながら、ディスプレイ・インテリア・雑貨・パッケージ・ロボットなど、国内外の様々な分野で立体商品を制作しています。



段ボール製組立て式マネキン



ディズニーシリーズ



シャンペンぎん

製品概要 2 d-torso series

d-torso®



事業概要

主な販売先

■ **d-torso** ペーパークラフトシリーズは国内外の美術館やセレクトショップ、雑貨店、**ディズニーランド** などへ卸販売。

■ オリジナルディスプレイの製作は、今夏の**エルメス**のショーウィンドウ、**サクスフィフスアベニュー** (NY)、**Google** 本社エントランスのディスプレイなど国内外で実績がある。

■ 売上高の**20%は海外**への輸出。2011年よりニューヨークの見本市に出展 (jetro) し、海外販路開拓を進めている。

これらの商品は、企画から製造まですべて**国東の本社（廃校）**でおこなわれ、国内外に出荷している。



エルメスショーウィンドウ (日本)

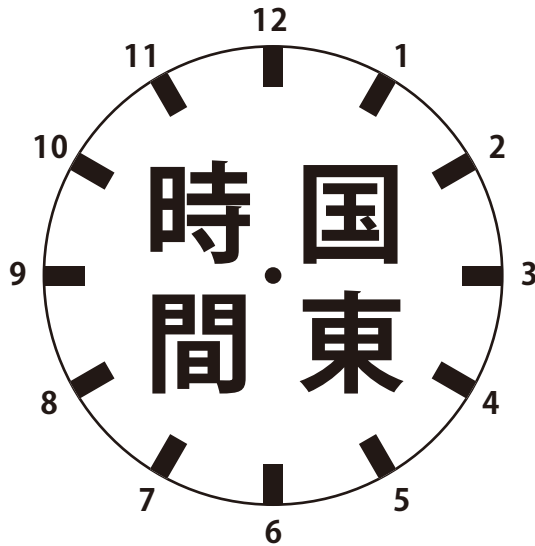


Google 本社のディスプレイ (米国)



ダンボール製ロボット

週休三日制（国東時間）の導入



国東時間の概要

- ・週休三日（給料はそのまま）
- ・1日10時間、週40時間勤務（変形労働時間制）
- ・ボランティア活動の推奨（特別手当）
- ・定年制の廃止
- ・SNS等を利用してどこにいても常に仕事の経過をチェックする

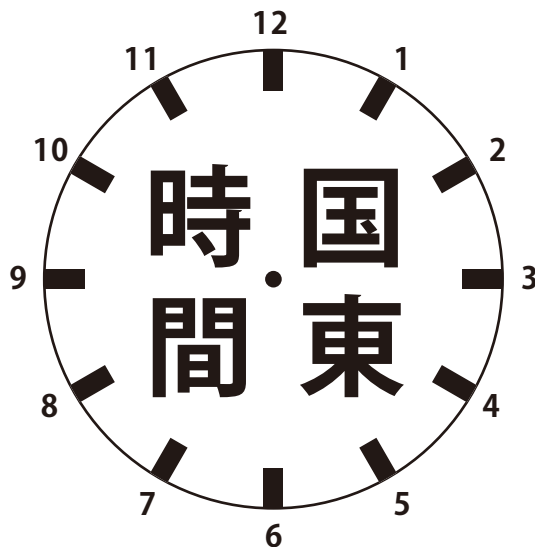
導入のきっかけ

平成10年の創業以来、右肩上がり伸びてきた売上が、H24年度はじめて前年実績を下回った。ふたたび売上を伸ばして行くために、自分たちの仕事と生活、この土地で豊かに生きて行くために何をすればいいか、考えよう。

個人のスキルアップを推奨し仕事に繋げる

月曜日から木曜日は出勤日。月曜日の朝8時に朝礼を行い、その週の仕事（タスク）を詳細にリストアップする。木曜日夕方の終礼で同じリストで仕事の経過をチェックする。その週の仕事を翌週に持ち越さないのが唯一のルール。

金曜日から日曜日は休日。社員それぞれがこの土地の時間を取り込んで、個々のスキルアップに時間を使って欲しい。個人のスキルがアップすれば、それは会社に還元されて仕事の効率アップ、創造力のアップ、ひいては収益アップに繋がるはず。



「国東時間」のメディア掲載

- ・大分合同新聞 (2013.6.27)
- ・朝日新聞 (8.24)
- ・NHK「おはよう日本」
(11.12)
- ・NHK「さきどり」
(2014.1.26)
- ・読売新聞 (1.28)
- ・日経ビジネス (2.10)
- ・朝日新聞別冊 BEE(4.26)

その他インターネットメディア等で多数紹介される

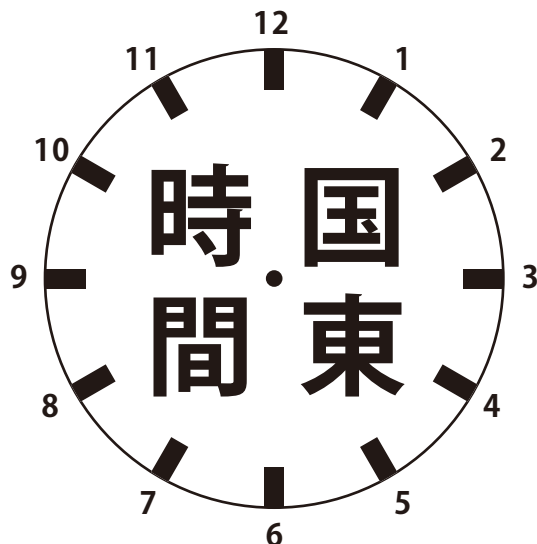
国東時間の効果と可能性

実績と効果

平成 25 年度の実績は 24 年度に比べて、職員の給料はそのままに、実質的な労働時間は 5 分の 4。売上高は 28%アップ。内外の要因はいろいろと考えられるが、国東時間の導入によって、仕事の効率化が進んだ事は間違いない。

- まず、無駄な会議がなくなった。コミュニケーションの効率化。
- スケジュール管理の徹底。仕事にプライオリティをつけ、効率的に仕事をするのが習慣化。
- 三日間の休みによって心身ともにリフレッシュする。仕事への集中力が増す。 >> 創造力（クリエイティブ）の向上
- 地域活動の推進。「時祭（ときのまつり）」 >> 補足資料 1 参照
- 連続三日間の休みを利用して農作業ができる。 >> 副収入
- 育児の時間ができた >> 子育て

総合的に、仕事に向かう社員のモチベーションが高くなった。



国東時間の意義

自分たちの時間を取り戻そう

■ 1日は24時間、1年は365日。これは世界共通だが、東京やNYで流れる時間と、ここ国東の山の中で流れる時間はあきらかに質が違う。都会の時間にあわせるのではなく、この土地固有の時間のなかで、積極的に風土文化をとりこみながら、ビジネスを組立て、精度の高い仕事ができるはずだ。

■ 考え方に賛同した複数の異業種企業が「国東時間」という名前で新しい働き方を試みる動きが出てきた。 >> **地域への広がり**

■ 地方での「豊かな暮らし」は、都会と同じ手法をもっては成立しない。働き方、暮らし方、地域コミュニティとの繋がり、その土地に流れる時間の中から生まれてくるものであるからだ。

地域のつながり >> 補足資料1「時祭（ときのまつり）」

補足資料 1

国東時間と地域コミュニティー 「時祭（ときのまつり）」

少子化と廃校利用、地域コミュニティーの再生

三日間の休みは地域の活動に向かう時間にもなった。「国東時間」の導入と時を同じくして、地元在住のアーティストと会社のスタッフが中心になって地域の新しい「お祭り」づくりを始めた。高齢化が進むこの地域ではお祭りの担い手も年々少なくなっている。お祭りがなくなれば人と人の絆もさらに失われ、コミュニティーも崩壊していく。この山間地域をささえてきた相互扶助のしくみが失われるということだ。そこで私たちは地域の新しいお祭りが必要だと考えた。自分たちの「時間」を祝福するお祭り、「時祭（ときのまつり）」。

1年半をかけて準備してきたこの「時祭」が先月行われた。かつて小学校だったころの運動場には500人以上の人々が集まり、皆で手をつないで一つの輪になって踊った。私たちにとって、豊かな時間とは何か、そのヒントがそこにはあった。（映像DVDを添付）

「時祭」Facebook Page

<https://www.facebook.com/tokinomatsuri>



少子高齢化、地域コミュニティーからの若者の離脱、地域が抱えるこれらの問題はこの国の共通した課題であり、ここ国東半島に住む私たちにとっても差しせまった問題です。このような状況があと十年続けば村落の自治機能も損なわれ、この美しい里山の風景も次第に消えていくことになるでしょう。

「時祭（ときのまつり）」は失われつつある地域住民同士の繋がりをもう一度取り戻すため、そして活力ある地域コミュニティーを再生するため、この地の歴史文化と現代音楽を融合させた新しいカタチの盆踊りの楽曲を地元在住のアーティスト「山中カメラ」が創作し、年に一度子供やお年寄りが若者と一緒になって参加できる「時祭」大ボンダンス大会を実施し、地域振興につなげようとするものです。

第一回目の会場となるのは少子化のため6年前に閉校になった旧西武蔵小学校のグラウンド。運営するのは数年前からこの校舎を使ってモノづくりの事業を行っている企業のスタッフたちです。子供たちの声が聞こえなくなって久しいこの小学校に再び人が集まり輪でつながっていく姿はかならずや地域の人々を元気づけるものと確信しています。

補足資料 2

【アキ工作社について】

ダンボールクラフト d-torso (ディー・トルソー) の企画制作・製造・販売を行う。1998年7月創業。代表取締役社長：松岡勇樹 (まつおかゆうき)。資本金：3200万円。従業員数：13人。現在、少子化の為に閉校になった大分県下の山間の小学校舎をリユースして d-torso 事業の拠点としている。第二回大分県ビジネスプラングランプリ最優秀賞。経済産業省「元気なモノづくり中小企業 300社」選出。第四回「ものづくり日本大賞」優秀賞受賞。

会社概要：<http://www.wtv.co.jp/company/>

製品概要：<http://www.d-torso.jp/about.html>

Facebook：<http://www.facebook.com/dtorso.jp>

【デザイナー：松岡勇樹について】

松岡勇樹 (まつおかゆうき)、1962年大分県国東市生まれ。武蔵野美術大学建築学科修士課程修了後、建築構造設計事務所勤務を経て、独立。1995年ニットデザイナーである妻の個展の為に d-torso のプロトタイプとなる段ボール製マネキンを制作。1998年、生まれ故郷である国東市安岐町にアキ工作社を創業、代表取締役社長。2001年「段ボール製組立て式マネキン」でグッドデザイン賞受賞。2004年第二回大分県ビジネスプラングランプリで最優秀賞受賞(賞金1500万円)。2009年から、廃校になった旧西武蔵小学校を国東市から借り受け、事業の拠点としている。日本文理大学建築学科客員教授。



2013.6.27 国東時間プレスリリースより抜粋

・・・僕たちの、この働きかたはあくまでも仕事の効率化、収益の向上を目指したものであるが、定着すれば、若い有能な人材を集めることにも繋がるだろう。現代の若い人たちにとっては、拘束されない時間こそがお金よりも大事だからだ。世間的にはなかなか理解されにくいことでもあるけれど、若い世代は常に本質的な問題を提起する。「時はカネなり／Time is money.」と僕たちの世代はいわれたけれど、おそらくそれは間違いだった。すべての生きているものにとって、どの瞬間を切り取っても常にベクトルは「死」に向かっているのだから、「時間」は「生命 (いのち)」そのものであるはずだ。その生命のなかから生きるための「仕事」が生まれ、すべての営為がうまれるのだ。

僕たちはずいぶん長い間、「借りものの時間」を過ごしてきたような気がする。場所にはその場所の固有の時間が流れている、考えてみれば自明のことなのに、いつのまにか他所の時間に合わせて生活するようになっていた。この廃校を利用するようになって4年、国東の環境が僕たちに教えてくれたものはとても大きい。

国東時間を前提にして、ビジネスを組み立てていく。不可能ではないはずだ。まずはこの1年で会社としての実績をあげることだろう。そうして、これをモデル化できれば他の国東の事業者にも勧めていきたい。・・・もちろん、それぞれの業態によって困難はあるだろうが。

でも、想像してみたい。30年後、現在の人口が3分の2になるといわれている、この国東市。国東時間の会社が増えれば、ここで暮らしてみたいと思う人が増えるのではないだろうか。会社勤めしている人たちの中には兼業で田畑を作っている人たちも多い、休日には田畑を耕して副収入を得ることもできる。子供がいる家族にとっては育児の分担もできるし、子育ては多少なりともしやすくなるだろう。とくに少子化が進行するこの地域にとっては歯止めになるかもしれない。あるいは会社とも家族ともはなれて、一日自分だけの時間に使うのもいいだろう。休日が増えれば街に出る機会が増える、出会いも増える、お金も使う、すべてが好転しそうな気がしてならないのだ。

「自由の王国の根本条件は労働日の短縮だ」そうである。はたして自由の王国への第一歩になるか。アキ工作社の挑戦はまだはじまったばかりだ。

株式会社アキ工作社 代表取締役 松岡勇樹

「国東時間」

<http://www.d-torso.jp/kunisaki.html>